

第4期みやぎ観光戦略プランの現状と分析

みやぎ観光振興会議

宮城県のこれまでの観光の取り組み

- 宮城県は「宮城の将来ビジョン」を策定し、「富県共創！活力とやすらぎの邦づくり」を基本理念として県政を推進する中で、観光の果たす役割が極めて重要であるという認識に立って、平成18年12月に「みやぎ観光戦略プラン」、平成23年3月には「第2期みやぎ観光戦略プラン」を策定した。
- その後に発生した東日本大震災により、「宮城県震災復興計画」を策定し、その中で復興のポイントの一つに「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」を掲げており、平成26年3月に「第3期みやぎ観光戦略プラン」を策定し、観光の復興に向けた取組を推進してきたところである。
- 現行の第4期みやぎ観光戦略プランについては、平成30年度から令和2年度までの計画期間であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標指標の把握や評価が困難であったことから、**計画期間を1年間延長**するとともに、「みやぎ観光回復戦略（実施計画）」を策定し、**コロナからの回復の視点を4期プランの柱に追加**した。

【令和3年3月改定】

- ①1年延長
- ②コロナからの回復を柱に追加

みやぎ観光戦略プランによる取組

平成二十三年三月
みやぎ観光創造県民条例の制定

【第1期】 平成19年度から22年度

「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して

3つの戦略プロジェクト

- 1 みやぎの魅力創出プロジェクト
- 2 みやぎの情報発信・誘客プロジェクト
- 3 みやぎの連携・組織づくりプロジェクト

【第2期】 平成23年度から25年度

地域が潤う、住んでよし、訪れてよしの感動の「観光王国みやぎ」の実現を目指して

5つの戦略プロジェクト

- 1 みやぎの魅力向上プロジェクト
- 2 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト
- 3 インバウンド強化プロジェクト
- 4 関東以西からの誘客強化プロジェクト
- 5 アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト

【第3期】 平成26年度から29年度

みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ

5つの取組の方向性

- 1 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客
- 2 外国人観光客の回復
- 3 LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実
- 4 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化
- 5 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充

【第4期】 平成30年度から令和3年度

観光の再生から未来につながる新たなステージへ

5つの戦略プロジェクト

- 1 東北が一体となった広域観光の充実と誘客プロモーション
- 2 観光産業の連携強化と成長促進
- 3 外国人観光客の誘客加速化
- 4 沿岸部のにぎわい創出
- 5 **感染症により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくり**

第4期みやぎ観光戦略プラン（改定版）

計画の位置づけ

- ・「みやぎ観光創造県民条例」に定める観光振興に関する基本計画（行動計画）
- ・「**新・宮城の将来ビジョン**」の分野別計画

計画期間

平成30年度から**令和3年度**まで

みやぎの観光の現状と課題

- 沿岸部の観光客の回復の遅れ
- 東北地方の外国人宿泊者の伸び悩み
- 東北地方の国内観光旅行者の回復の遅れ
- 観光消費額の低迷
- **感染症の影響により旅行需要は大幅に減少**

計画の基本理念

観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ

数値目標	基準値 (平成28年)	実績値 (令和元年)	実績値 (令和2年)	改定前目標値 (令和2年)	目標値 (令和3年)
観光客入込数	6,084万人	6,796万人	3,945万人	7,000万人	7,000万人
うち沿岸部(石巻・気仙沼 地域)の観光客入込数	552万人	921万人	561万人	805万人	805万人
宿泊観光客数	922万人泊	989万人泊	587万人泊	1,000万人泊	1,000万人泊
うち沿岸部(石巻・気仙沼 地域)の宿泊観光客数	67万人泊	80万人泊	53万人泊	75万人泊	75万人泊
外国人観光客宿泊者数	17.5万人泊	53.4万人泊	12.0万人泊	50万人泊	50万人泊
観光消費額	3,044億円	3,989億円	(集計中)	4,000億円	4,000億円

第4期みやぎ観光戦略プラン（改定版） 5つの戦略プロジェクト

出典：みやぎ観光創造県民条例第12条に基づく報告

戦略プロジェクト	平成30年度		令和元年度		令和2年度			
	事業数	事業費	事業数	事業費	事業数	事業費		
戦略プロジェクト1								
東北が一体となった広域観光の充実と誘客プロモーション	39	754百万円	37	808百万円	令和2年度事業は集計中			
戦略プロジェクト2								
観光産業の連携強化と成長促進	35	1,207百万円	32	862百万円				
戦略プロジェクト3								
外国人観光客の誘客加速化	36	700百万円	32	705百万円				
戦略プロジェクト4								
沿岸部のにぎわい創出	20	17,375百万円	19	15,609百万円				
戦略プロジェクト5								
感染症により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくり	(令和2年度から)							
合計(再掲含む)	130	20,035百万円	120	17,984百万円				
合計(再掲・道路除く)	89	2,450百万円	83	2,279百万円				

※表示単位未満四捨五入のため、積み上げと計が一致しない

第4期みやぎ観光戦略プラン（改定版） 5つの戦略プロジェクト

戦略プロジェクト1

東北が一体となった広域観光の充実と誘客プロモーション

- (1) 東北の広域観光周遊ルートの確立と観光資源の磨き上げ
- (2) 東北の魅力を伝える一体的な誘客プロモーション
- (3) 仙台空港等の活用や二次交通の充実による東北の周遊促進

【取組内容】

- 東北地方全体の観光の底上げを図るため、東北観光推進機構や東北各県との連携による東北の広域観光周遊ルートの確立と観光資源の磨き上げや、東北各県知事による海外トップセールスなどの東北の魅力を伝える一体的な誘客プロモーションのほか、仙台空港を活用した誘客促進やバスなどの二次交通の充実による東北の周遊促進に取り組んだ。

【主な取組（令和元年度）】

- 東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化
 - ・東北各県及び新潟県知事等によるバンコクトップセールス等のプロモーションを行った。
- 他県連携等による外国人観光客誘致促進事業
 - ・南東北三県によるタイ向けプロモーションやインバウンド向け防災観光プログラムの造成を行った。
- 二次交通利用拡大事業
 - ・仙台空港からの二次交通のプロモーション強化やコンテンツの造成等を行った。
- 仙台空港地域連携・活性化事業
 - ・パスポート取得費の一部を助成するキャンペーンを実施し、仙台空港を利用した海外旅行の促進を図った。（パスポート取得費用助成人数：622人）



東北各県等知事による
バンコクトップセールス



二次交通利用促進
プロモーション

戦略プロジェクト2

観光産業の連携強化と成長促進

- (1) DMO等の形成による魅力ある観光地域づくり
- (2) 観光産業の成長に向けた基盤強化

【取組内容】

- 地域の特性を活かした観光地域づくりを行うため、DMO等の取組の支援や農林水産業等との連携等による新たな観光の魅力づくり、人材の育成などの取組のほか、観光産業の更なる成長を促進するため、マーケティングの活用や経営・サービスの改善、観光資源の磨き上げなどによる受入態勢の整備などの観光産業の成長に向けた基盤強化に取り組んだ。

【主な取組（令和元年度）】

■ 仙台・松島復興観光拠点都市圏事業

- ・拠点都市圏において、マーケティングリサーチや観光資源の発掘・磨き上げ、受入体制整備を行った。

■ 宮城オルレ推進事業

- ・韓国済州島発祥のトレッキング「宮城オルレ」の新規コース造成やオープニングイベントを行った。

■ みやぎ観光戦略受入基盤整備事業

- ・観光客の安全に配慮した自然公園施設の整備や老朽化施設の再整備を行った。

■ 宮城県グリーン製品を活用した公園施設整備事業

- ・自然公園内における自然歩道において、「宮城県グリーン製品」を活用した案内板等の整備を行った。



宮城オルレ
(大崎・鳴子コース)



蔵王トイレ再整備
(駒草平)

戦略プロジェクト3

外国人観光客の誘客加速化

- (1) 東アジア市場を中心とした誘客プロモーション
- (2) 風評払拭のための正確かつ戦略的な情報発信等
- (3) 訪日外国人受入環境整備の推進

【取組内容】

- 重点市場である台湾・中国・韓国・香港の東アジア市場を中心に、新市場の欧米豪を含めた誘客プロモーションに取り組んだほか、SNS等を活用した風評払拭のための正確かつ戦略的な情報発信を行った。また、外国人観光客の受入環境の充実に向けて、多言語案内や無料Wi-Fi整備の推進などに取り組んだ。

【主な取組（令和元年度）】

- 欧米豪を対象とした長期滞在型観光プロモーション事業
 - ・欧米豪からの誘客促進のため、欧米豪向け観光コンテンツ磨き上げやモニターツアー等を行った。
- 外国人観光客誘致促進事業
 - ・台湾等からの観光客誘致のため、旅行博への出展やマスコミ等の招請等のプロモーションを行った。
- みやぎ観光デジタルマーケティング推進事業
 - ・インバウンド向けWEBサイト「VISIT MIYAGI」を活用したデジタルマーケティングを行った。
(英語版・アジア版／アクセス数：85万ビュー)
- 外国人観光客受入環境整備促進事業
 - ・宿泊施設や観光集客施設における無線LAN機器設置や案内表示の多言語化等の導入経費を支援した。



モニターツアー



台湾でのプロモーション

戦略プロジェクト4

沿岸部のにぎわい創出

- (1) 魅力ある観光資源の磨き上げと正確な情報発信
- (2) 観光施設等の再建と受入態勢整備強化

【取組内容】

- 沿岸部のにぎわい創出のため、体験型観光・復興ツーリズムの推進などの沿岸部の魅力ある観光資源の磨き上げや、風評の払拭に向けた正確な観光・復興情報の発信のほか、被災地の状況を踏まえた観光・宿泊施設の再建支援などの受入態勢整備に取り組んだ。

【主な取組（令和元年度）】

■ 通年観光キャンペーン事業

- ・観光キャンペーンキャラクターを起用し、様々な媒体による通年の観光キャンペーンを行った。



通年観光キャンペーン

■ 県外観光客支援事業

- ・旅行会社・学校等への沿岸部のツアーやプログラムの情報提供、受入先とのマッチングを支援した。

■ 沿岸部教育旅行等受入拡大事業

- ・県外から沿岸部への団体旅行に対してバス経費を助成したほか、教育旅行の情報収集や発信を行った。（「みやぎ沿岸部団体旅行バス助成金」交付決定：83件・8,670千円）



沿岸部交流人口
拡大モデル事業
（気仙沼市の野杜海）

■ 沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業

- ・沿岸部における集客力のある宿泊・観光集客施設の設置に要する経費の一部を助成した。

第4期みやぎ観光戦略プラン（改定版） 5つの戦略プロジェクト

戦略プロジェクト5

感染症により落ち込んだ観光需要の回復と持続可能な観光地づくり

- (1) 安全・安心の機運醸成と可視化による選ばれる観光地づくり
- (2) 回復フェーズに応じた取組推進と観光資源の魅力の再発見
- (3) ニューノーマルに適應したビジネスモデル転換と新たな観光の創出

【取組内容】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光需要の回復と、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るため、地方創生臨時交付金といった国の感染症関連予算等を最大限活用したほか、事業を重点化しつつ、関係者とともに創意工夫をしながら、「新しい生活様式」を取り入れた事業継続等に取り組んだ。

【主な取組（令和2年度）】※とりまとめ作業中

- 観光宿泊プラン造成支援事業（せんだい・みやぎ絆の宿キャンペーン）
- 小規模宿泊事業者支援事業（仙台・宮城すずめのお宿キャンペーン）
 - ・落ち込んだ観光需要を喚起するため、旅行商品の割引補助等を行った。
- 安心な観光地づくり推進事業
 - ・ステッカー等により安全・安心の取組について可視化するとともに、優良事例の情報発信を行った。
- 新しい旅の形に対応した宿泊施設ビジネスモデル転換事業
 - ・新たな生活様式に適應したデジタル変革によるビジネスモデルの転換等に要する施設改修等経費の補助を行った。

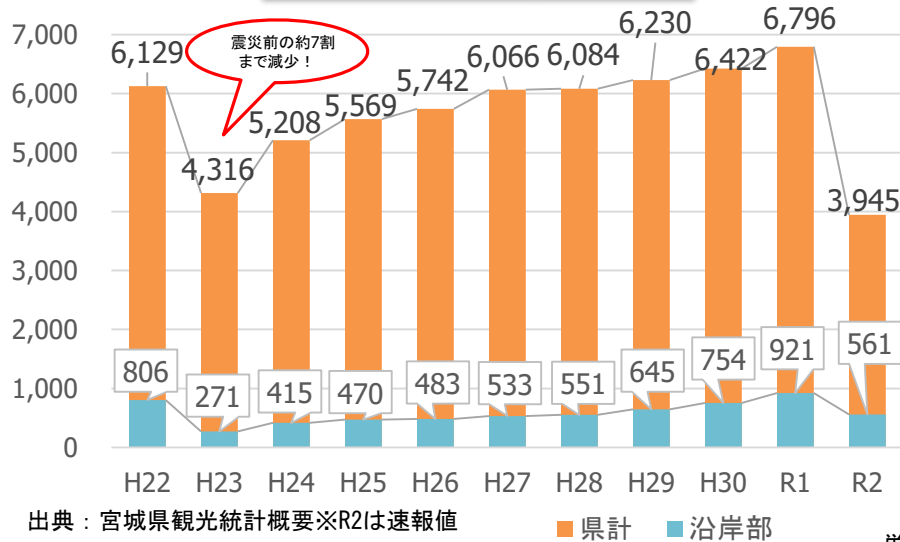


ビジネスモデル転換事業
大広間をワーケーション
等の対応へ

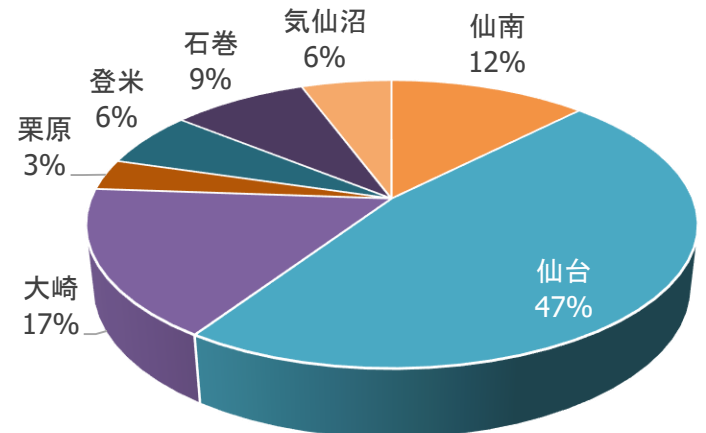
観光の現状① ～宮城県観光客入込数～

- 宮城県の観光客入込数は、東日本大震災で大きく減少し、震災前（平成22年）の約7割まで減少したが、震災前の水準を上回った平成29年以降、過去最高の観光客入込数を3年連続更新したほか、沿岸部（石巻圏域及び気仙沼圏域）では、令和元年には震災前の水準を超えていた。
- しかし、令和2年には新型コロナウイルス感染症の影響により、3,950万人と、前年（令和元年）に比べ2,851万人の減少（▲42%）となった。

宮城県の観光客入込数の推移



令和2年 圏域別観光客入込数内訳



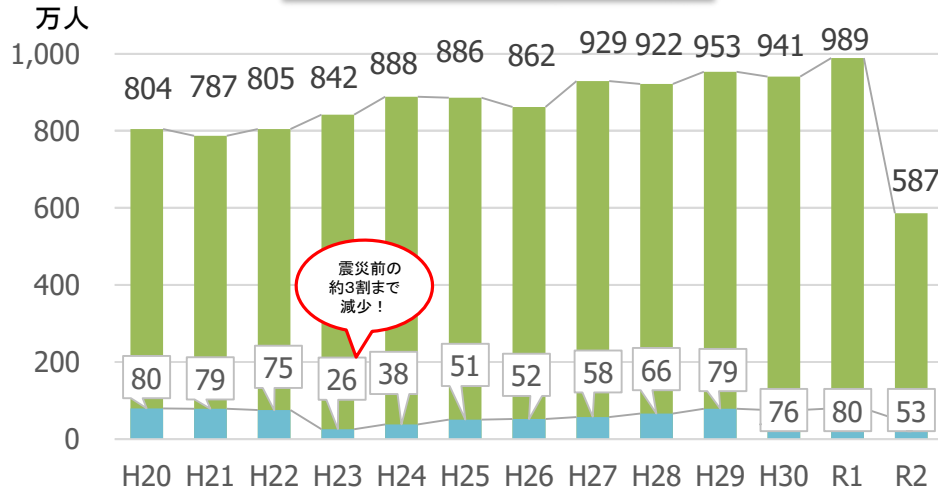
単位：万人（表示単位未満四捨五入のため、積み上げと計が一致しない）

圏域	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R2/R1
仙南	567	438	578	600	636	602	609	620	619	718	490	68.2%
仙台	3,368	2,416	2,919	3,157	3,270	3,557	3,504	3,535	3,595	3,679	1,853	50.4%
大崎	997	885	939	952	933	913	944	945	935	941	659	70.1%
栗原	113	77	95	133	154	189	201	187	195	190	136	71.6%
登米	277	229	262	258	267	271	274	298	324	347	245	70.7%
石巻	443	192	247	280	283	318	335	358	460	550	337	61.2%
気仙沼	362	79	168	190	200	215	216	287	295	371	224	60.4%
合計	6,129	4,316	5,208	5,569	5,742	6,066	6,084	6,230	6,422	6,796	3,945	58.0%

観光の現状② ～宮城県の宿泊観光客数～

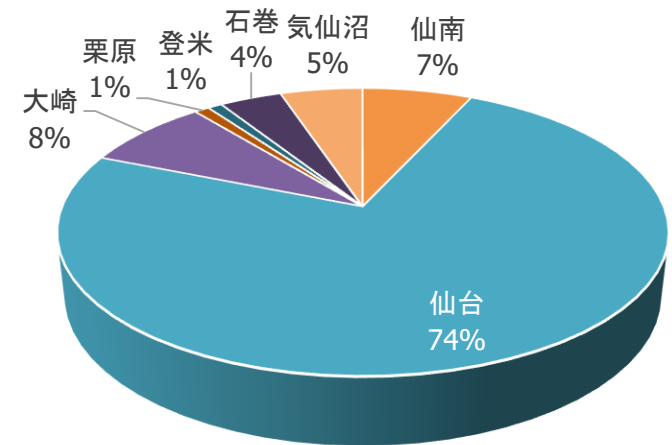
- 宮城県の宿泊観光客数は、東日本大震災後も復興需要などにより増加の傾向にあり、令和元年は震災前（平成22年）と比較し、約2割（22.9%）の伸びとなったほか、沿岸部（石巻圏域及び気仙沼圏域）では、東日本大震災により震災前（平成22年）の約3割まで減少したが、ほぼ震災前の水準に回復していた。
- しかし、令和2年は観光入込客数同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、587万人と、前年（令和元年）に比べ402万人の減少（▲40.7%）となった。

宮城県の宿泊観光客数の推移



出典：宮城県観光統計概要

令和2年 圏域別宿泊観光客数内訳



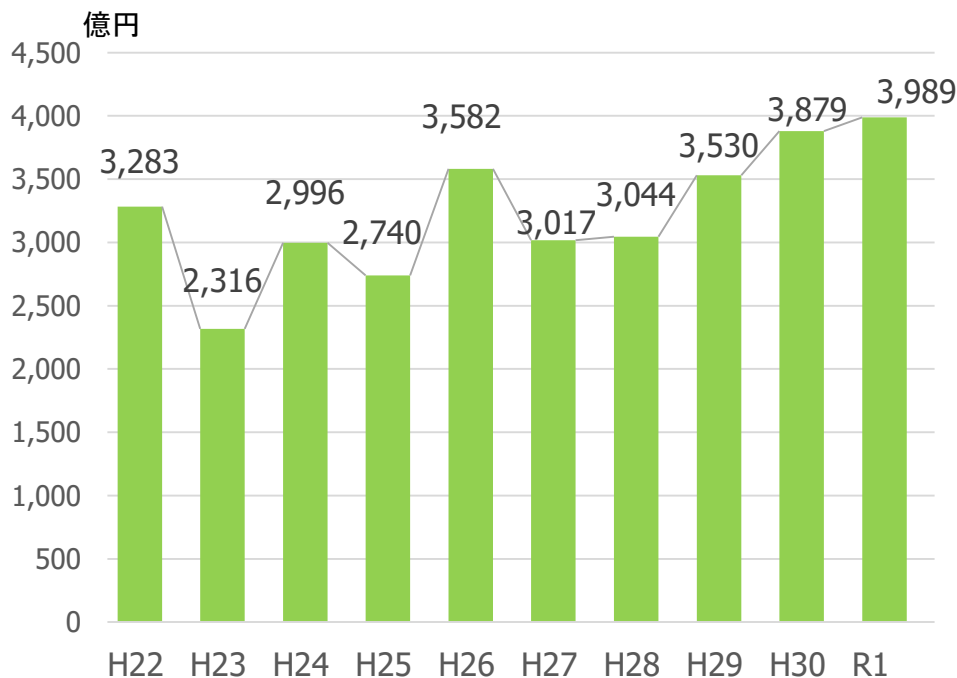
出典：宮城県観光統計概要

単位：万人（表示単位未満四捨五入のため、積み上げと計が一致しない）

圏域	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R2/R1
仙南	61	67	77	68	67	63	66	70	61	71	41	57.2%
仙台	565	644	659	667	638	705	683	700	707	742	435	58.6%
大崎	93	96	101	87	88	84	86	85	78	77	47	61.0%
栗原	9	6	10	11	11	11	12	12	11	11	5	52.2%
登米	3	2	3	3	3	8	9	7	7	9	5	59.8%
石巻	31	5	8	17	18	22	24	37	36	38	23	60.6%
気仙沼	44	22	30	33	34	36	42	42	40	42	30	72.9%
合計	805	842	888	886	862	929	922	953	941	989	587	59.3%

- 令和元年の宮城県の観光消費額は3,989億円であり、震災前(平成22年)の121%まで伸びており、観光客入込数などの順調な伸びとともに、着実に増加している。
- 消費額については、「国内客（日帰り）」、「国内客（宿泊）」、「訪日外国人」の順に大きくなるのが特徴。

宮城県の観光消費額の推移



観光客の消費動向(宮城)

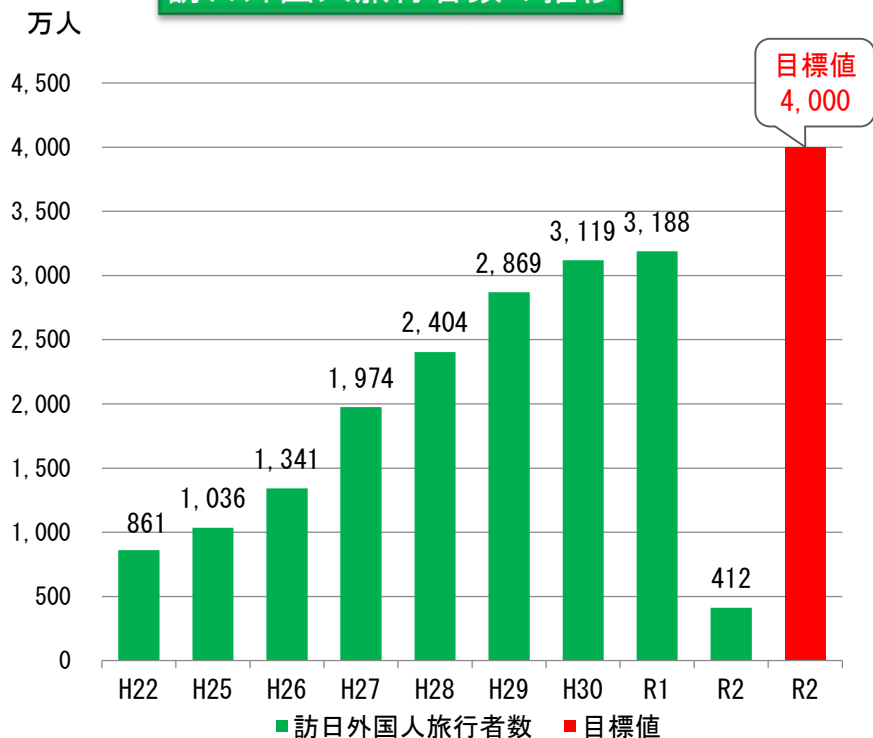
宮城県	観光消費額	人数	1人1回あたりの消費額
訪日外国人	440億円	39万人	112,820円
国内客(宿泊)	2,129億円	767万人	27,757円
国内客(日帰り)	1,420億円	2,038万人	6,968円

出典：観光庁 共通基準による観光入込客統計

観光の現状④ ～全国の訪日外国人旅行者数・内訳～

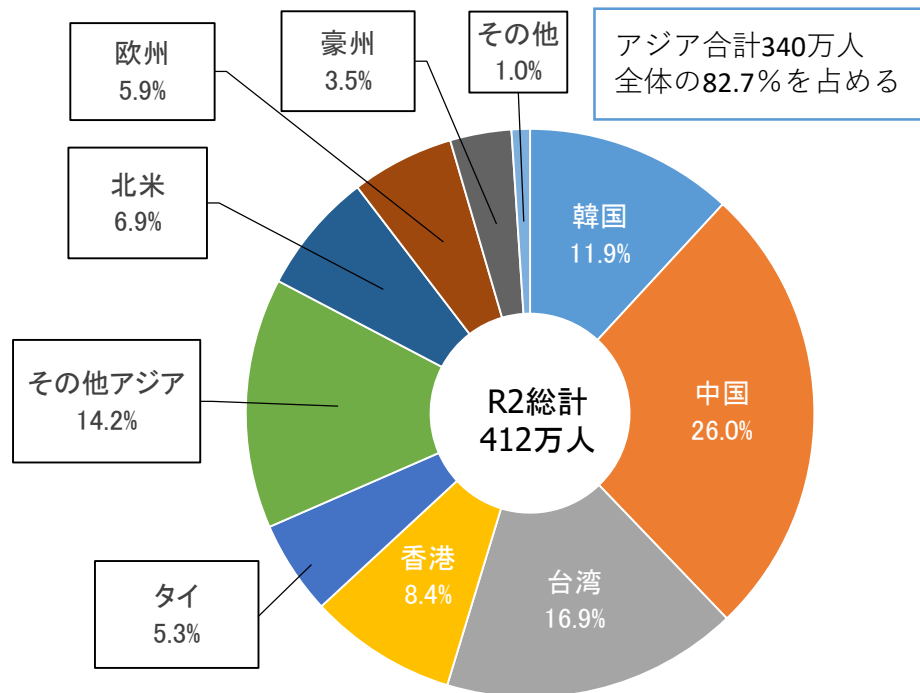
- 令和元年の訪日外国人旅行者数は、平成30年の3,119万人を更に上回る3,188万人（対前年比2.2%増）となり、過去最高を更新した。
- 訪日外国人旅行者を国籍別に見ると、中国・韓国・台湾などのアジア諸国が全体の82.7%となっており、北米が6.9%，欧州が5.9%と続いている。

訪日外国人旅行者数の推移



出典：日本政府観光局（JNTO）年別訪日外客数の推移

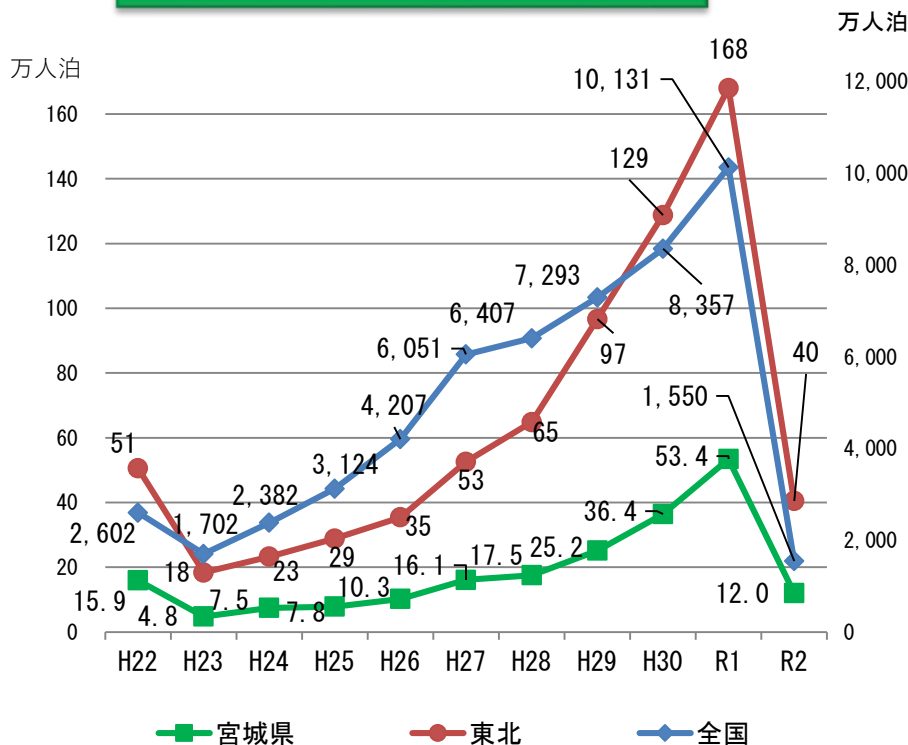
国籍別訪日外国人旅行者の内訳



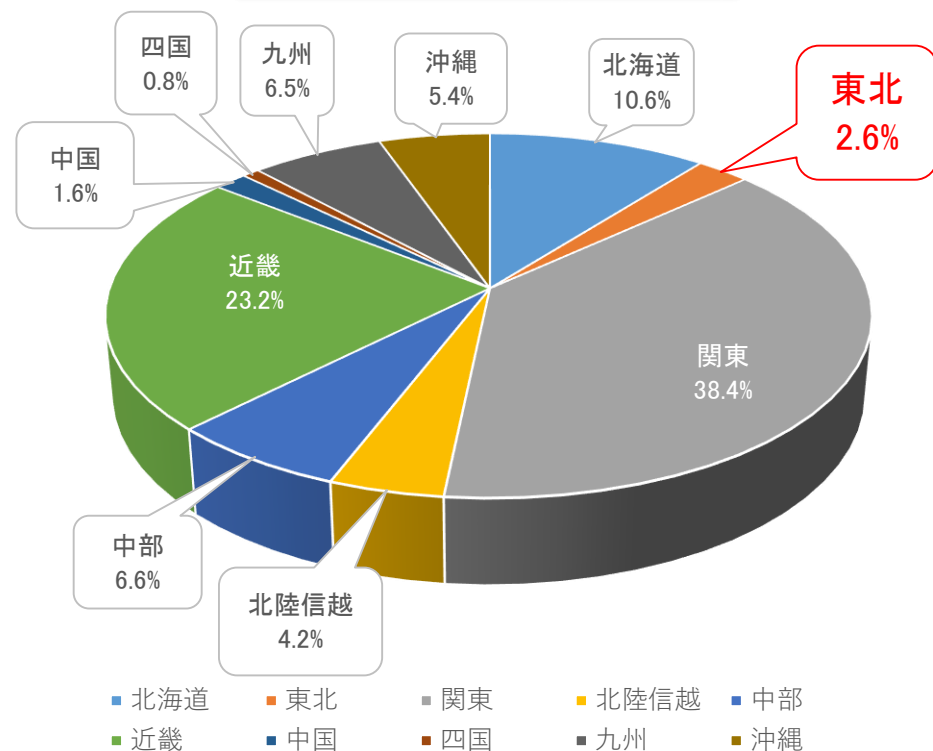
出典：日本政府観光局（JNTO）訪日外客数（2020年）

- 全国の令和元年の外国人宿泊者数（ビジネス目的含む。）は、約1億13万人（震災前比約3.9倍）と近年大きく伸びており、これに対して東北地方も約168万人（震災前比約3.3倍）と伸びているものの、全国の中では約2.6%の割合に留まっている。
- 令和2年においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国は1,550万人、宮城県は12万人と激減している。

全国・東北・宮城の外国人宿泊者数の推移 (従業員10人以上の施設)



地区別外国人宿泊者数の割合



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査（※R2速報値）

出典：観光庁 宿泊旅行統計調査（※R2速報値）

第4期プランの総括 ～目標指標等～

【現状】 主に観光客の視点

■ 第4期プラン目標指標

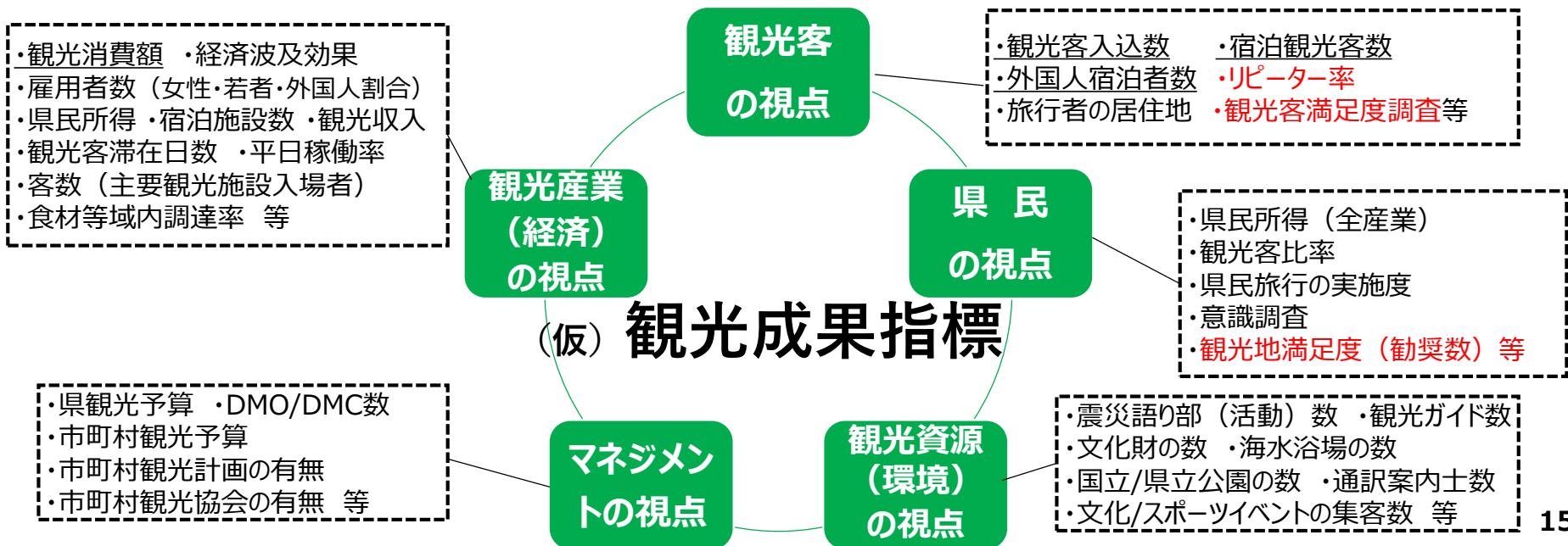
- ①観光客入込数
- ②沿岸部の観光客入込数
- ③宿泊観光客数
- ④沿岸部の宿泊観光客数
- ⑤外国人観光客宿泊者数
- ⑥観光消費額

【課題】

- 現目標は、「結果としての数」しか示されていない。また、観光客の視点の指標が中心となっている。
- 本来は、現在の指標が、どのような要素の変動（成果）により、増減しているかの検証が必要。
- プランには、県民生活や地域の目指すべき姿についても言及されているが、そもそも現状や目標を示していないので、県民や事業者がイメージしづらい。

【取組内容・改善点】

- 達成イメージをより具体化するため、県民がイメージしやすい指標や視点を多角的に分析する。



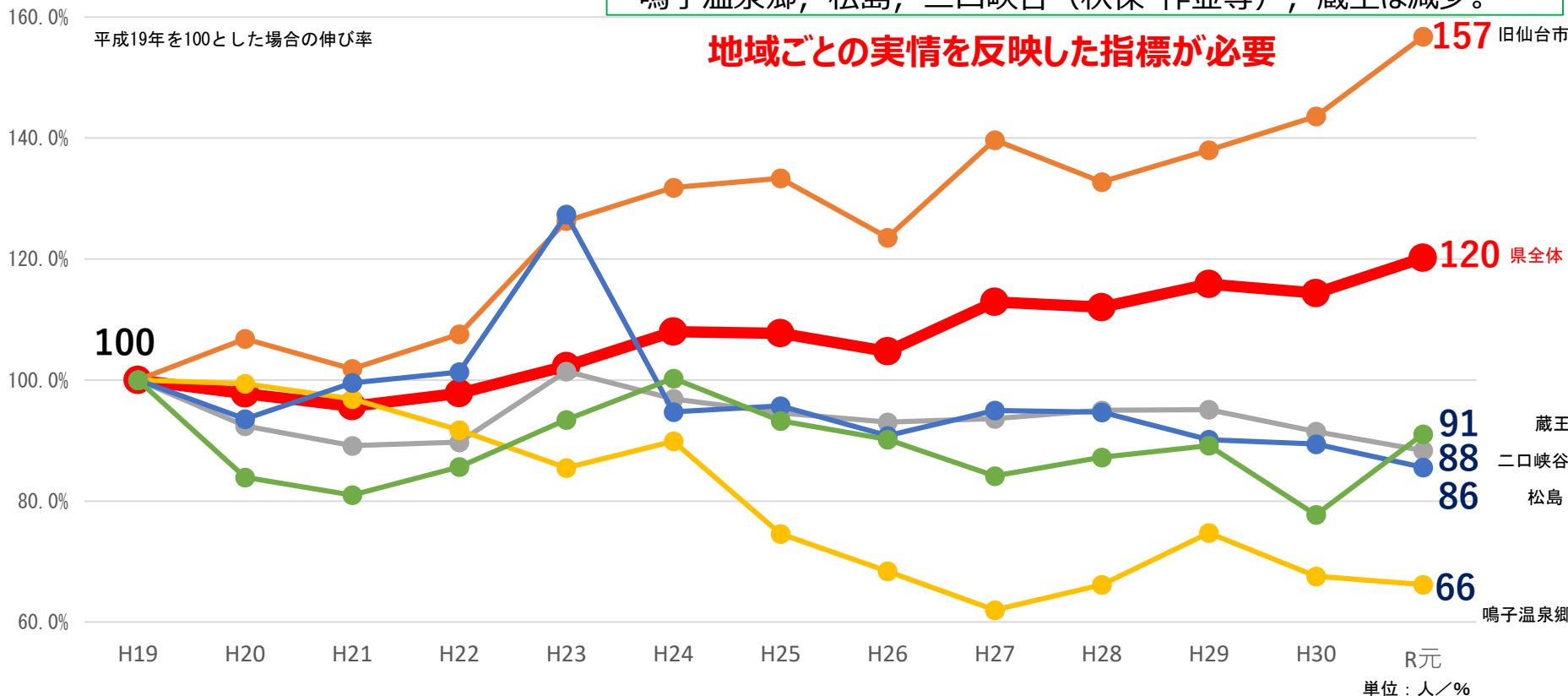
多角的な分析の例

多角的な分析 ～主要地点宿泊観光客数～

出典：宮城県観光統計概要

観光客の視点

- ・宿泊者数は、対平成19年比で+20.2%だが、増加はほぼ仙台市中心部のみ。
- ・鳴子温泉郷、松島、二口峡谷（秋保・作並等）、蔵王は減少。



地域別	H19	H22	H25	H28	R元	増減数 (R元-H19)	増減率 (対H19)
県合計	8,226,706	8,047,141	8,861,731	9,216,753	9,887,653	1,660,947	20.2
旧仙台市	3,121,332	3,357,592	4,162,217	4,143,673	4,892,986	1,771,654	56.8
二口峡谷（秋保・作並等）	1,210,242	1,085,858	1,144,417	1,149,831	1,069,305	▲ 140,937	▲ 11.6
鳴子温泉郷	801,000	734,900	597,500	530,000	530,100	▲ 270,900	▲ 33.8
松島	735,276	744,949	703,802	696,228	629,216	▲ 106,060	▲ 14.4
蔵王	650,604	557,179	606,794	567,479	592,341	▲ 58,263	▲ 9.0

多角的な分析 ～県内総生産～

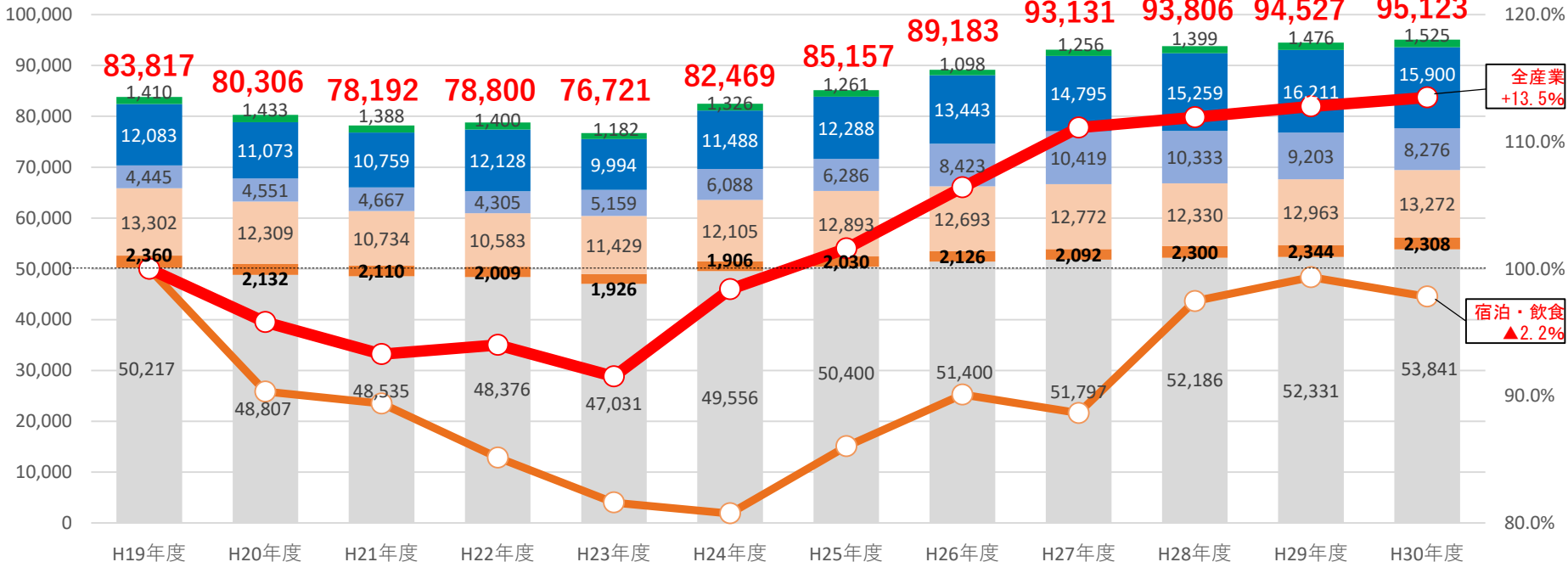
出典：県民経済計算

観光産業の視点／県民の視点

- ・県内総生産は、対平成19年度比で13.5%と増加。
- ・一方で、宿泊・飲食サービスの県内総生産は▲2.2%と微減。

【棒グラフ】

各産業（億円）



単位：百万円／%

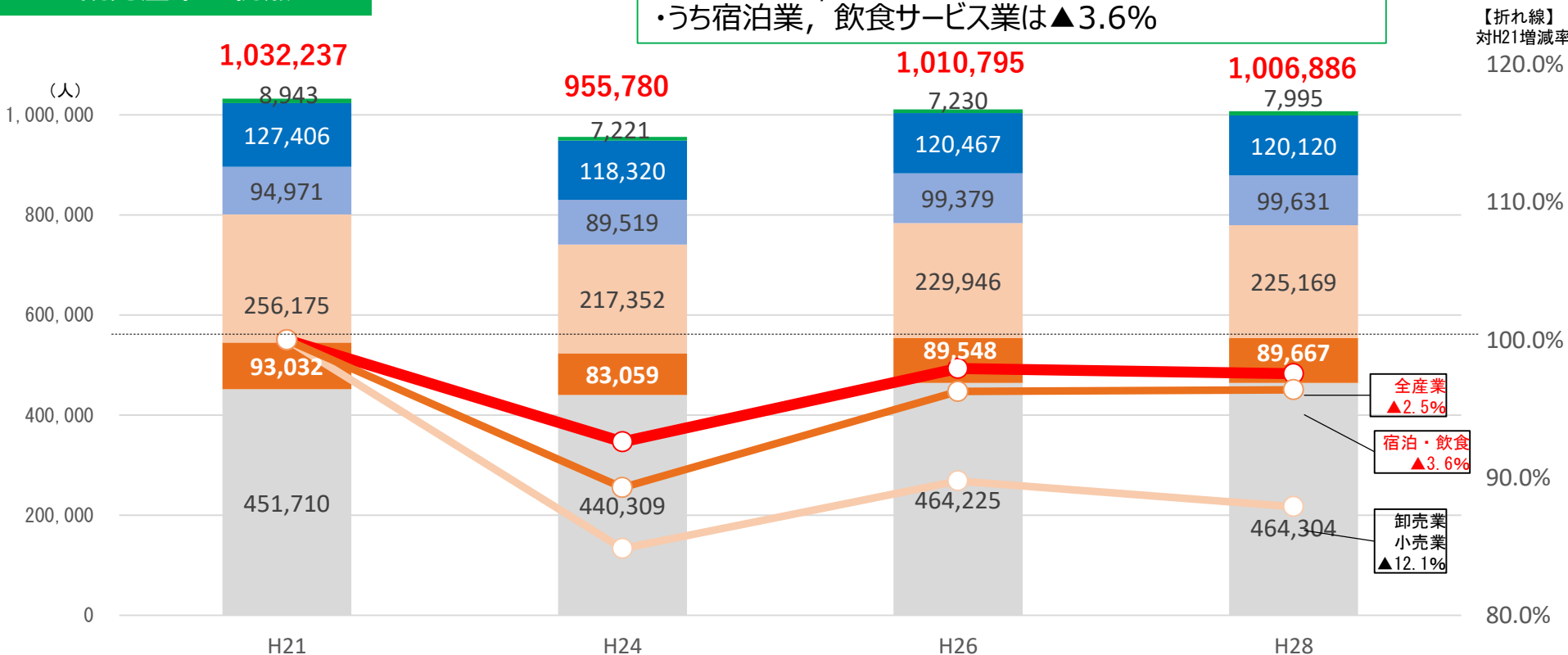
産業別	H19年度	H22年度	H25年度	H28年度	H30年度	増減数 (H30-H19)	増減率 (対H19)
県内総生産	8,381,717	7,880,010	8,515,654	9,380,602	9,512,296	1,130,579	13.5
農林漁業	140,966	139,975	126,058	139,878	152,452	11,486	8.1
製造業	1,208,289	1,212,836	1,228,768	1,525,852	1,590,011	381,722	31.6
建設業・鉱業	444,532	430,461	628,573	1,033,287	827,646	383,114	86.2
卸売業、小売業	1,330,193	1,058,254	1,289,262	1,233,043	1,327,232	▲ 2,961	▲ 0.2
宿泊・飲食サービス業	235,998	200,933	203,017	229,977	230,827	▲ 5,171	▲ 2.2
その他	5,021,739	4,837,551	5,039,976	5,218,565	5,384,128	362,389	7.2

多角的な分析 ～従業員数～

出典：経済センサス

観光産業の視点

・従業員数は、対平成21年比で▲2.5%
 ・うち宿泊業、飲食サービス業は▲3.6%



単位：人／%

産業別	H21	H24	H26	H28	増減数 (H28-H21)	増減率 (対H21)
全産業	1,032,237	955,780	1,010,795	1,006,886	▲ 25,351	▲ 2.5
農林漁業	8,943	7,221	7,230	7,995	▲ 948	▲ 10.6
製造業	127,406	118,320	120,467	120,120	▲ 7,286	▲ 5.7
建設業	94,971	89,519	99,379	99,631	4,660	4.9
卸売業、小売業	256,175	217,352	229,946	225,169	▲ 31,006	▲ 12.1
宿泊業、飲食サービス業	93,032	83,059	89,548	89,667	▲ 3,365	▲ 3.6
その他	451,710	440,309	464,225	464,304	12,549	2.8

多角的な分析 ～宿泊者数～

- ・宿泊者数に占める県内居住者数の割合で、宮城県は全国上位。東北は全体的に県内観光客数の割合が高い。
- ・ウイズコロナにおけるマイクロツーリズム推進には強みとなる一方、**将来的な人口減少を見据えると県外客の一層の取り込み策が必要**である。

延べ宿泊者数に占める県内居住者数の割合（都道府県別）

【2019年】

順位	都道府県	県内割合
1	北海道	35.6%
2	岩手県	29.0%
3	山形県	27.1%
4	宮城県	26.0%
5	新潟県	25.7%
9	福島県	25.0%
10	秋田県	23.2%
11	青森県	23.1%
43	沖縄県	10.5%
44	和歌山県	10.2%
45	奈良県	10.2%
46	山梨県	8.6%
47	京都府	7.6%

出典：観光庁 宿泊観光統計

【2020年】

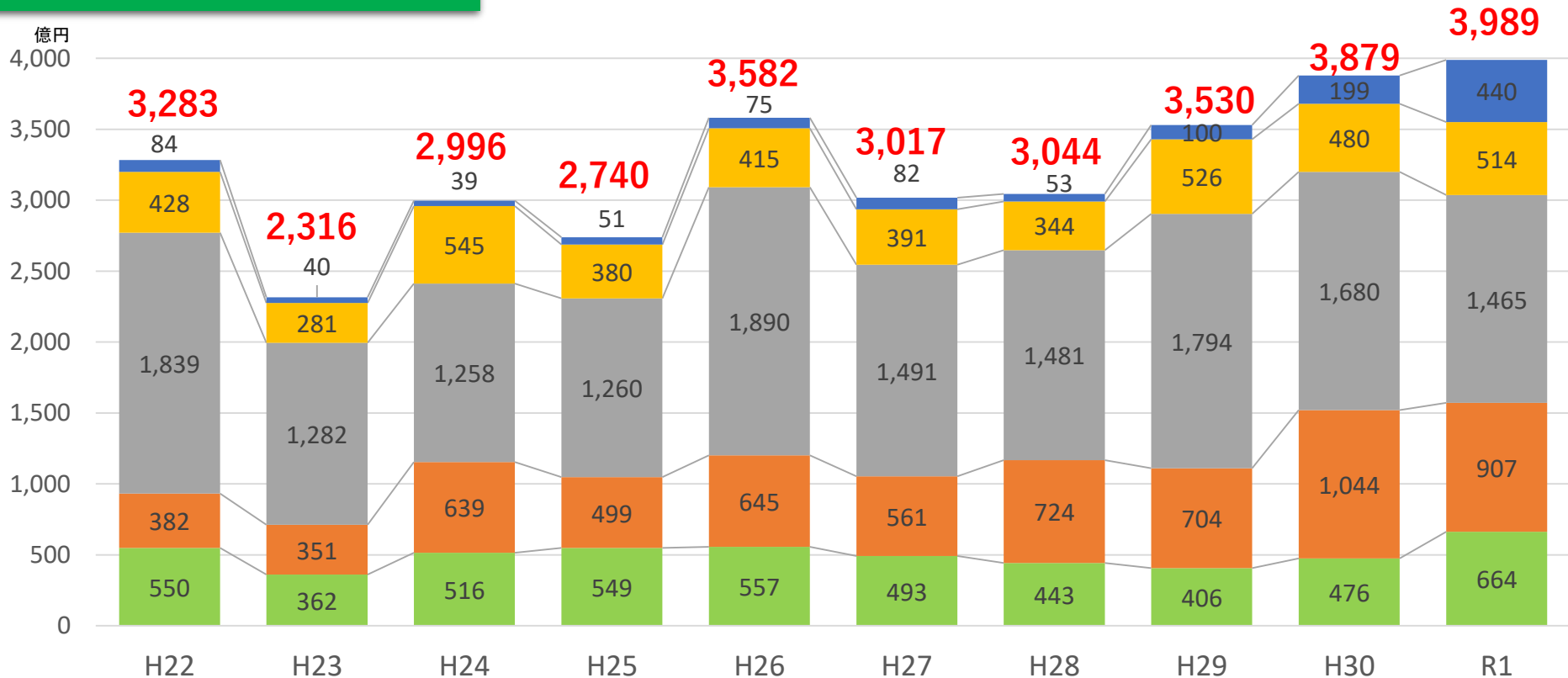
順位	都道府県	県内割合
1	北海道	50.9%
2	神奈川県	37.6%
3	岩手県	36.5%
4	秋田県	35.0%
5	宮城県	33.4%
8	青森県	32.6%
13	山形県	28.8%
15	福島県	27.8%
43	佐賀県	16.9%
44	徳島県	16.5%
45	和歌山県	14.9%
46	京都府	14.1%
47	山梨県	11.9%

出典：観光庁 宿泊観光統計

出典：観光庁 共通基準による観光入込客統計

- 観光消費額は、対平成22年比で706億円の増となっている。（+21.5%）
- このうち、外国人の観光消費額は356億円の増となっているほか、県内日帰りは525億円、県内宿泊は114億円それぞれ増となっている。

観光消費額（県全体）の推移

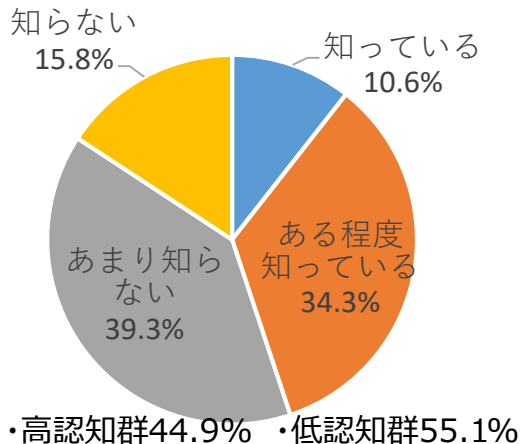


※表示単位未満四捨五入のため、積み上げと計が一致しない箇所がある

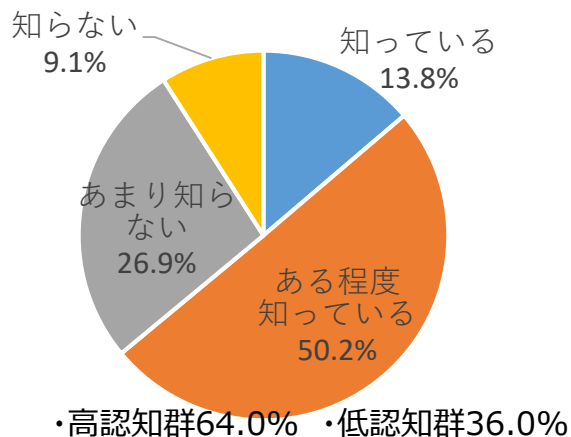
県民の視点

【認知度】

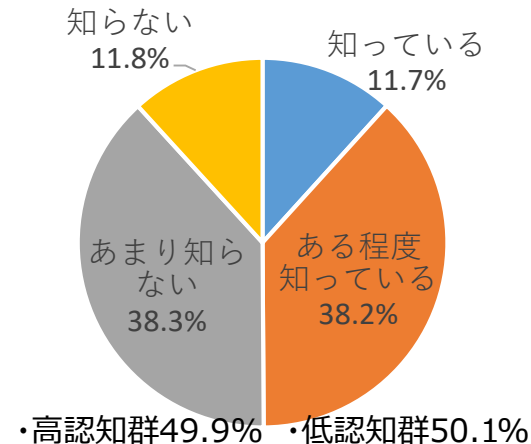
商業・観光



被災者の生活環境の確保

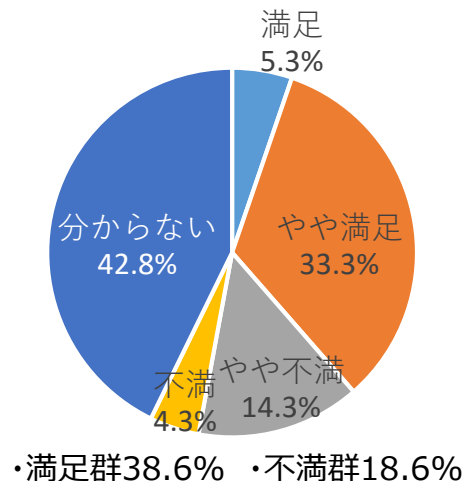


未来を担う子どもたちへの支援

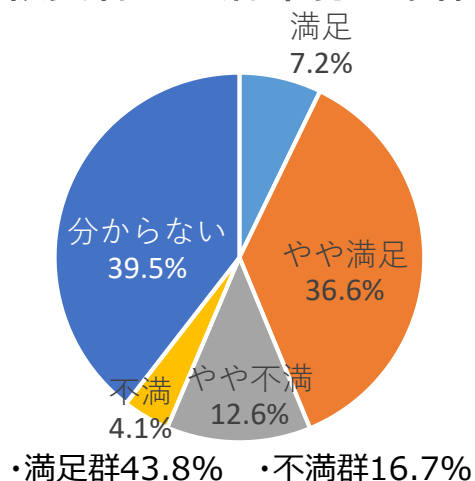


【満足度】

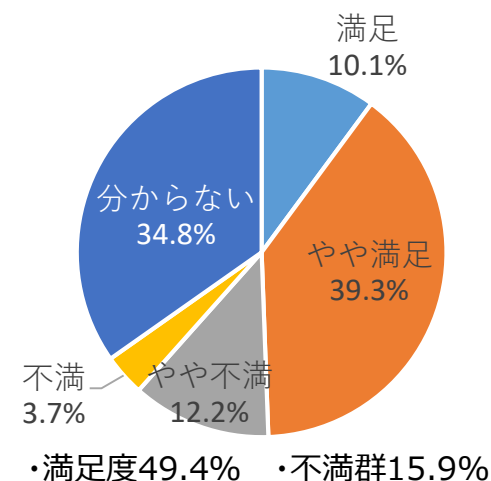
商業・観光



被災者の生活環境の確保



未来を担う子どもたちへの支援



観光資源の視点（伝承施設）

震災の記憶の

風化防止・ 伝承施設

東日本大震災から10年がたち、震災の記憶の風化が進む中、
宮城県内では多くの伝承施設や復興モニュメント、
震災遺構の整備が進められています。
※この他に、民間の施設も整備されています。



県内の主な伝承施設等一覧

- ① リアス・アーク美術館
「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示
- ② 唐桑半島ビジターセンター・津波体験館
- ③ 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館（気仙沼向洋高校旧校舎等）
- ④ 南三陸町震災復興祈念公園
- ⑤ 石巻市震災遺構大川小学校（令和3年3月整備完了予定）
- ⑥ 石巻市震災遺構門脇小学校（令和3年度整備完了予定）
- ⑦ 石巻南浜津波復興祈念公園
- ⑧ 東日本大震災遺構 旧女川交番
- ⑨ 東松島市震災復興伝承館／旧野蒜駅プラットホーム（震災遺構）
- ⑩ 松島町石田沢防災センター
- ⑪ 塩竈市津波防災センター
- ⑫ せんだい3.11メモリアル交流館
- ⑬ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校
- ⑭ 名取市震災復興伝承館
- ⑮ 名取市震災メモリアル公園
- ⑯ 岩沼市千年希望の丘交流センター
- ⑰ 山元町防災拠点・山下地域交流センター（1階 防災情報コーナー）
- ⑱ 山元町震災遺構中浜小学校

3 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館 （気仙沼向洋高校旧校舎等）



提供：気仙沼市

震災の記録と教訓を伝承するため、「目に見える証」として津波で4階まで被災した気仙沼向洋高校旧校舎を「震災遺構」として保存し、震災時の津波映像や被災直後の写真展示を備える「震災伝承館」と併せて公開しています。

- 所在地 気仙沼市波路上瀬向9-1
- 開館時間 9:30～17:00（4月～9月）、9:30～16:00（10月～3月）
- 休 日 月曜（月曜が祝日の場合は翌日）／祝日の翌日（土日、GW期間を除く）／年末年始（12月29日～1月4日）
- 問合せ先 0226-28-9671

7 石巻南浜津波復興祈念公園



東日本大震災により亡くなられた方々の追悼、震災の記憶と教訓の伝承等を目的に整備され、国営追悼・記念施設や避難薬山などが配置されるほか、公園内の「みやぎ東日本大震災津波伝承館」では、被災の状況や津波から命を守るための教訓等をパネルや映像を用いて伝えています。

- 所在地 石巻市南浜地内
- 問合せ先 公園について：022-211-3138（宮城県都市計画課）
伝承館の展示について：022-211-2443（宮城県震災復興推進課）

【参考】阪神・淡路大震災（伝承施設）

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター （西館H14.4／東館H15.4開館）

- ・兵庫県神戸市
- ・平成29年度 来館者数約50万人



北淡震災記念公園 野島断層保存館 （H10.4開館）

- ・兵庫県淡路市
- ・平成29年度 来館者数約13万人



マネジメントの視点

- ・地方財政状況調査（総務省）によると、本県の観光費は平成19年度と令和元年度で約3倍に増加。
（震災に係るハード・ソフト事業関係）
- ・平成19年度 777百万円 → 令和元年度 2,038百万円（+1,261百万円）

【沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業補助金（復興基金）】

- ・沿岸部に集客力の高い宿泊施設や観光集客施設を設置する事業者に対して補助金を交付した。

<活用事例>

- 仙台市 ・JRフルーツパーク
- 亘理町 ・わたり温泉 鳥の海
- 石巻市 ・伝承交流施設M E E T門脇
- 東松島市 ・KIBOTCHA（キボッチャ）
・奥松島LANE HOTEL
- 女川町 ・ホテルエルファロ
- 気仙沼市 ・気仙沼大島ウェルカムエリア観光施設 野杜海（のどか）
・迎（ムカエル）



KIBOTCHA【東松島市】



野杜海【気仙沼市】